

多様なアクティビティが重なる器

大阪狭山市に既にあるポテンシャルを活かすように
『生活』や『歴史』や『地勢』に耳を澄ませ
積み重なる地層がレイヤー状に重なるように、
新たな活動や賑わいが重なる居場所をつくります



01// 大阪狭山市の魅力をさらに高めるサードプレイス

目的が無くても過ごせるサードプレイス

貴市の魅力をさらに高める施設として、『用事がなくても』、『散歩の寄り道に』、『何かのついでに』など、目的を持たなくても過ごせるようなサードプレイスを提案します。

みんなを受け止める深いフトコロ

敷地周辺には犬の散歩をする人や街道を散歩する人がいます。まずは立ち寄りやすく、様々な人や多様な活動を受け止めるフトコロの深い施設を目指します。

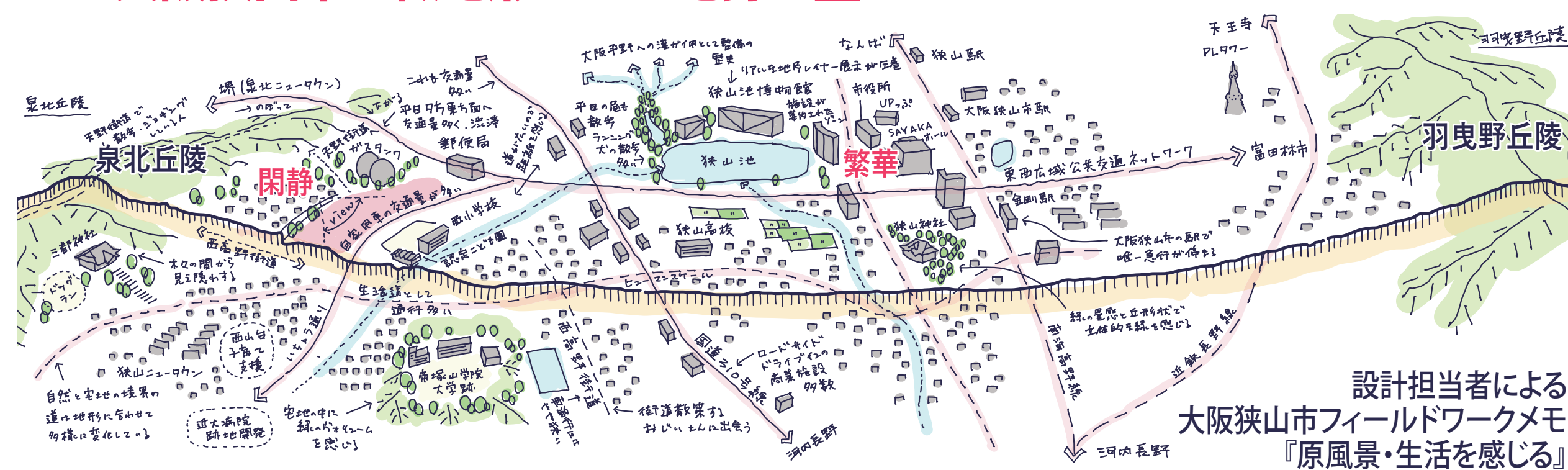


フトコロの深い器で市民の様々なニーズを受け止める



2階から「本の丘」をみる

02// 大阪狭山市の微地形による地勢の豊かさ



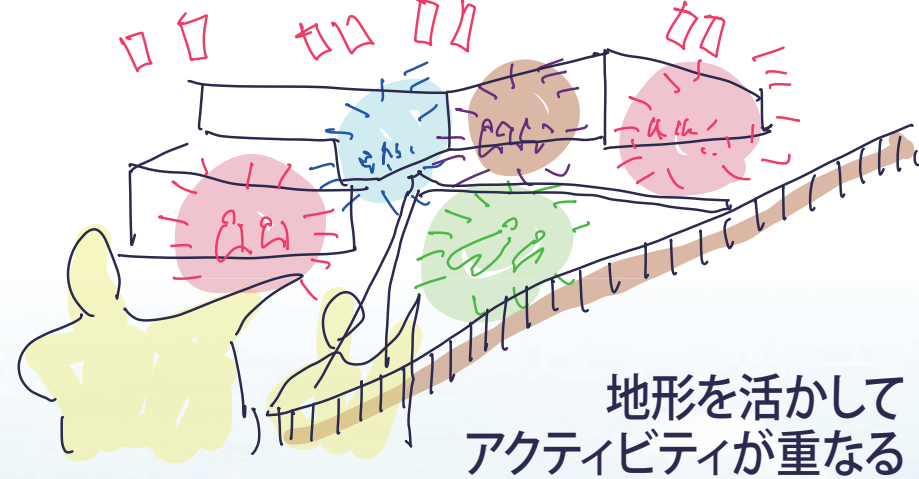
設計担当者による
大阪狭山市フィールドワークメモ
『原風景・生活を感じる』



みんなの広場

03// アクティビティの重なりが ランドマークとなるデザイン

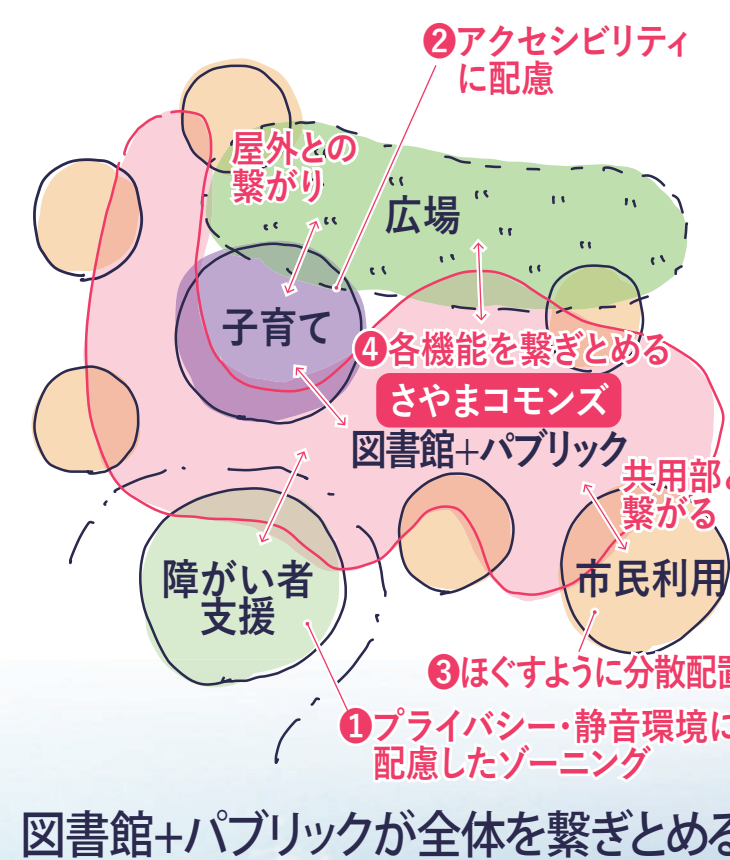
緩やかな傾斜をもった敷地の特性を活かし、建築もアクティビティも、豊かな緑陰の中に見え隠れしながら、地形に寄り添い、穏やかに佇むような表情となります。



地形を活かして
アクティビティが重なる

04// 機能的なゾーニングとつながりの両立

- ・屋内外がシームレスにつながることで、より開かれた施設とします。
- ・機能的なゾーニングとつながりを両立します。
- ・市民が集まりやすい居場所を点在させ、日常の居場所のための施設づくりをします。
- ・居場所をタイムシェアすることで施設全体を余すことなく使います。



図書館+パブリックが全体を繋ぎとめる



「さやまの丘」から狭山池をみる



※整備事業者からの提案内容であり、一部変更となる可能性があります。